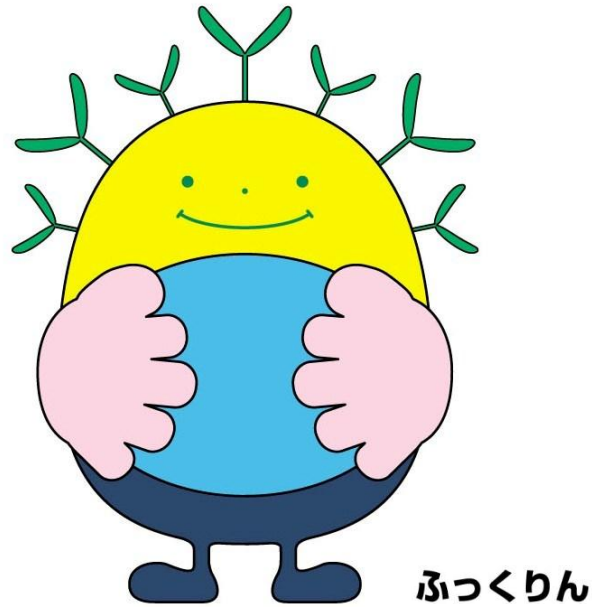


平成28年度 森づくりの状況・施策の実施状況



県産材活用課・森づくり課

目 次

| | ページ |
|------------------------|-----|
| 1. ふくいの森林・林業基本計画(概要) | 1 |
| 2. 計画の目標(目標年度:平成31年度) | 3 |
| 3. 平成28年度の取り組み | |
| ① 山ぎわすっきり県産材倍増プロジェクト | 4 |
| ② ふくいの木80万本活用プロジェクト | 6 |
| ③ ふくいの里山100宝山プロジェクト | 8 |
| ④ 次代につながるふくいの森と花プロジェクト | 10 |

ふくいの森林・林業基本計画(概要)

① 山ぎわすっきり県産材倍増プロジェクト

山ぎわを中心に間伐を進め、低コスト化により県産材の生産量を倍増する

県産材生産量 116千 m^3 → 195千 m^3

○ 山ぎわでの間伐を進める

- ・山ぎわ間伐を推進（間伐材搬出拡大、美しい景観創出）
- ・集落ぐるみで取り組むコミュニティ林業を拡大
- ・GPSを活用して間伐の前提となる森林境界の管理を促進

○ 生産コストを下げる

- ・県有林と民有林等の一体化による新たな木材生産団地「県民共働の森」を設定
- ・林内路網1.5倍の整備と高性能林業機械の導入促進
- ・低コスト搬出技術の開発（機械メーカーとの共働）

○ 流通コストを下げる

- ・A、B、C材に選別し、効率的に出荷するための「ウッドターミナル」等を設置
- ・「ウッドターミナル」等から需要先へ直送

○ 県有林(旧公社林等)からの供給を拡大する(木材収入の拡大)

- ・列状間伐の導入等による低コスト化
- ・民間活力を活かした新たな委託方式の導入

○ 森づくりを担う人材を育成する

- ・競争力のある民間事業体の育成（森林組合との連携強化や低コスト搬出技術の習得等）
- ・「ふくい林業カレッジ」を設置し、林業の専門知識を有した若い世代の人材を確保
- ・フォレストワーカーやフォレストプランナーを確保・育成
- ・経営意欲の高い林家の育成

② ふくいの木80万本活用プロジェクト

住宅・オフィス・街並みづくりや木質バイオマス発電などで県産材をフルに活用する

住宅での県産材使用率 36% → 50%

○ 県産材製材品の競争力を高め利用を拡大する（A材）

- ・工務店が求める人工乾燥材「福井ドライ材」の供給を拡大
- ・「ふくいブランド材」および「福井ドライ材」を工務店のニーズに応じ安定的に供給

○ 住宅での県産材の利用を50%に拡大する（A材）

- ・川上から川下までが連携した家づくりの推進
- ・県産材あふれる街並みづくりの推進(住宅団地やパブリックスペースでの利用を促進)

○ 新たな分野での利用を開拓する（A材）

- ・1企業1木質化運動の展開(民間企業での利用拡大)
- ・マンション、オフィス家具等での利用開拓
- ・新たな工法による中大規模施設の木造化・木質化(CLT・トラス梁工法)
- ・県産材の活用創出等に対する表彰制度の創設
- ・県外や海外へ向けて県産材の販路を開拓

○ 合板、集成材での利用を拡大する（B材）

- ・生産、流通の低コスト化による合板、集成材での需要の安定化

○ 木質バイオマスでの利用を拡大する（C材）

- ・木質バイオマスの発電での利用に加え地域での熱利用を推進

ふくいの森林・林業基本計画(概要)

③ ふくいの里山100宝山プロジェクト

林地残材や薪、特用林産物など森林資源を活用し、里山におけるビジネスを創出・拡大する

特用林産物の新たな品目等の生産拡大 10品目以上

○ 特用林産物を振興する

- ・地域ならではの新たな品目・商品の開発や施設整備による生産拡大(菊炭、ジャンボしいたけ、サマツ、椿油、薬木、マイタケ等)
- ・全国に誇れる本県の特用林産物の生産技術を後世に残すため、伝統技術を継承(くず、オウレン、うるし、コウゾ・ミツマタ等)

○ 「山の市場」で林地残材等を販売する

- ・林地残材等を自伐林家が生産・収集・販売する場の整備

○ 里山をエネルギーとして利用する

- ・園芸施設等で木質バイオマスを利用し里山資源を活用

○ 都市部から里山へ誘客する

- ・オーベルジュやオーナー農園など里山の魅力を活かし、都市部との交流を促進
- ・福井平野を一望でき、山や史跡等を巡る作業道等を活用したトレイルコースの設定や、森林浴など里山資源を活用した体験活動の推進

④ 次代につながるふくいの森と花プロジェクト

奥山での針広混交林化など次代につながる森づくりを進める
県民が森や花に関わる運動を拡大・強化し、緑や花に親しむ人を増やす

| | | | |
|------------|-------|---|-------|
| 奥山での針広混交林化 | 26ha | → | 900ha |
| 県民運動参加者数 | 4万9千人 | → | 6万人 |

○ 県有林(旧公社林等)など奥山の人工林は針広混交林化等を進める

- ・列状間伐等により針広混交林、広葉樹林に誘導

○ 災害・獣害・病虫害に強い森づくりを進める

- ・治山施設や森林整備の一体的な実施を推進
- ・森林組合のシカの個体数管理への参画や抵抗性アカマツの植栽等を推進
- ・獣害軽減につながる山ぎわでの間伐や作業道等の整備を推進

○ 30年で利用できる有用樹種を選定する

- ・高成長な有用樹種を選定し、山ぎわでの資源の循環を促進(センダン・コヨウサン等)

○ 里山の景観を再生する

- ・里山において、雑木や侵入竹林の除去、花木の植栽等の景観保全対策を推進

○ 花粉発生源対策を進める

- ・スギ林の主伐を促進し、花粉の少ない森林へ転換するとともに、無花粉スギを作出

○ 緑と花の県民運動を永続的に展開する

- ・全国植樹祭を契機に展開している緑と花の県民運動を拡大・強化

○ 国体開催に向けた花いっぱい運動を拡大・強化する

- ・花によるおもてなしを推進するため、花いっぱい運動を拡大・強化

計画の目標（目標年度：平成31年度）

① 山ぎわすっきり県産材倍増プロジェクト

| | |
|-------------|---------------------------|
| ○ 県産材生産量 | 195,000 m ³ /年 |
| ○ コミュニティ林業 | 150 集落 |
| ○ 民県共働の森 | 50 箇所 |
| ○ フォレストワーカー | 625 人 |
| ○ 間伐生産性 | 6 m ³ /人日 |

② ふくいの木80万本活用プロジェクト

| | |
|------------------|--------|
| ○ 住宅1棟あたりの県産材使用率 | 約 50 % |
|------------------|--------|

③ ふくいの里山100宝山プロジェクト

| | |
|---------------------|-------|
| ○ 特用林産物 新たな品目等の生産拡大 | 10 品目 |
|---------------------|-------|

④ 次代につながるふくいの森と花プロジェクト

| | |
|---------------|----------|
| ○ 針広混交林化 | 900 ha |
| ○ 緑と花の県民運動参加者 | 60,000 人 |

平成28年度の実施状況

① 山ぎわすっきり県産材倍増プロジェクト

コミュニティ林業については、集落での説明会(39回)や集落の代表者等を対象としたリーダー研修会(4地区)などにより、20集落で木材生産組合が設立され、昨年度の2割増となる3万7千 m^3 の間伐材が生産されました。

また、吉崎御坊に向かう国道沿いや一乗滝周辺県道沿いなどでの間伐を実施しました。



コミュニティ林業取組状況
(勝山市遅羽町比島)



境界の確認
(若狭町海士坂)



山ぎわ間伐
(あわら市牛山)

▼事業の成果▲

| | |
|------------|-------------------------|
| ○ 県産材生産量 | 178,000 m^3 /年 |
| ○ コミュニティ林業 | 95 集落(20集落増) |

平成28年度の実施状況

① 山ぎわすっきり県産材倍増プロジェクト

民有林と県有林が一体となった木材生産団地「民県共動の森」については現地研修会の開催などにより10箇所増え、20箇所に拡大しました。

ウッドターミナル等については、大野市に整備し、間伐材A、B、C材の仕分けに加え、大型車で合板工場や木質バイオマス発電施設へ直送するなど、流通が効率化されました。

平成28年5月にふくい林業カレッジを開設し、県外2名を含む9人の入校者に対し、林業に関する知識や技術の習得、資格取得のための研修を実施するなど、新規就業者の確保・育成を進めました。



民県共動の森 現地研修会
(福井市城有)



ウッドストック
(福井市朝谷町)



林業カレッジ研修
(池田町)

▼事業の成果▲

| | |
|-------------|-------------------------|
| ○ 民県共動の森 | 20 箇所(10箇所増) |
| ○ フォレストワーカー | 560 人 |
| ○ 間伐生産性 | 4.5 m ³ /人・日 |

平成28年度の実施状況

② ふくいの木80万本活用プロジェクト

県産材の利用拡大については、製材所が設立した協同組合で2基目となる人工乾燥機を整備し、県産柱材等の生産を拡大しました。また、小浜市の箸販売店や越前市の飲食店、あわら市の児童施設等において、木造・木質化を進めました。

オフィス家具を共同開発した大手家具メーカー等と県産材の利用推進に関する協定を締結するとともに、マンション内装材など県産材製品と併せて県内外のイベントに出展し、金融機関等への販売を進めました。



人工乾燥施設
(越前町織田)



児童施設の木質化
(福井市久喜津町)



オフィス家具の県産材利用推進
に係る協定の締結

▼事業の成果▲

○住宅1棟あたりの県産材使用率 42 %

平成28年度の実施状況

② ふくいの木80万本活用プロジェクト

平成28年4月、大野市において本県初となる木質バイオマス発電施設が稼働しました。年間12万 m^3 の木材を燃料とし、発電出力7千キロワット、一般家庭1万5千世帯相当分を発電しています。この施設の稼働により、一本の木を余すことなく利用できる環境が整い、これまで山に残さざるを得なかった間伐材(C材)の利用が進みました。



木質バイオマス発電施設
(大野市七板)



間伐材 (C材) ストック状況



燃料用チップ

▼事業の成果▲

○間伐材生産量

134, 000 m^3

平成28年度の実施状況

③ ふくいの里山100宝山プロジェクト

ジャンボしいたけ(香福茸)については、原木などの資材や生産技術研修会の開催に支援した結果、7名が生産を開始し、1月に初出荷しました。菊炭については、昨年度整備した専用の炭窯により、9月から生産を開始するとともに、将来の原料を確保するために、クヌギ500本を植栽しました。林業遺産にも認定されたくずについては、鯖サミットや若狭ツーデーマーチ等のイベントでPRを行いました。また、越前和紙の原料となるコウゾ960本の植栽や、越前漆器の原料となるウルシ1,000本の植栽など、伝統技術の継承を支援しました。その他、昨年度に整備した九頭竜まいたけ生産施設の本格稼働や山の市場の整備と合わせた薪の増産など、特用林産物の生産・販売を拡大しました。



ジャンボしいたけ
(香福茸)



菊炭



熊川くず



コウゾ



研磨炭

▼事業の成果▲

○特用林産物 新たな品目等の生産拡大 5品目

平成28年度の実施状況

③ ふくいの里山100宝山プロジェクト

山の市場を新たに大野市と勝山市、越前町、坂井市に設置し、自伐林家に対する伐採講習や林地残材の定期的な買取り等を進めた結果、販売額は970万円になりました。

また、山の市場での農産物や薪などを販売するイベントに、都市部等からのべ230名が参加するなど交流も促進しました。

県内3箇所を設定したコースを活用して、トレイルイベント「わかさ三方五湖トレイル」と「朝倉トレイルラン 2016」を開催しました。また、県内各地で開催された「若狭路トレイルラン」や「越知山泰澄トレイル」などのイベントを対象としたポイントラリーを実施するなど、トレイルによる誘客を進めました。



山の市場
(越前町)



山の市場
(大野市)



朝倉トレイルラン2016
(福井市)

▼事業の成果▲

○山の市場の設置

6箇所(4箇所増)

○トレイルコース利用者数

年間1万2千人

平成28年度の実施状況

④ 次代につながるふくいの森と花プロジェクト

県有林において列状間伐を254ha実施し、間伐の低コスト化を図るとともに、針広混交林化を進めました。

また、企業の森4箇所において、広葉樹630本の植栽を行い針広混交林化、広葉樹林化を図りました。



列状間伐
(福井市城有)



企業の森による広葉樹の植栽
(前田の森)

▼事業の成果▲

○針広混交林化

累計518 ha(255ha増)

平成28年度の実施状況

④ 次代につながるふくいの森と花プロジェクト

国体・障スポ開催に向け、競技会場へのアクセス道路沿いや観光地等へ、花や花木を植栽する『花の回廊づくり』を全市町において開始し、県内6箇所では、約1km続く植栽を実施しました。
また、みどりと花の県民運動大会を、平成29年度に開催する全国花のまちづくり大会のプレ大会として、花や造園の出店を増加させるなど、規模拡大して実施したところ、25,000人の参加がありました。



花いっぱい運動推進員による活動
(福井市寮町)



花のスクールステイ事業
(内浦小中学校)



花の回廊づくり
(梅街道：美浜町～若狭町)

▼事業の成果▲

○県民運動への参加者数 56,585 人